



平成29年10月13日  
松ヶ崎小学校学校運営協議会  
広報委員会

## 松ヶ崎の山に行こう



### ～3年生～

3年生は総合的な学習の時間に、「松ヶ崎の山へ行こう」というテーマで学習しました。4月から松ヶ崎自治連合会長、学校運営協議会理事長の岩崎猛彦さんにお世話になって法の山に登らせていただいたりお話を聞かせていただいたりして学習を進めてきました。これまで3年生なりにまとめてきたことを岩崎猛彦さんに発表しました。そして、法の山と私たちの生活との関係を教えていただきました。これからも、どうすれば法の山の課題を解決できるのかを考えていきます。



## 松ヶ崎の水のひみつ

### ～4年生～

4年生は総合的な学習の時間に『松ヶ崎の水』をテーマに調べ学習を進めました。岩崎猛彦さんに、泉川や高野川の水門のこと、宝ヶ池の生き物についてお話をさせていただきました。校区探検の時、子どもたちは水門があることには気づいていましたが、何のためにあるのか、誰が管理しているのかについては疑問に思っていたところでした。とても詳しく聞くことができ、子どもたちもすっきりしたようです。

## 星のお話

### ～4年生～

理科『星の明るさや色』の学習で、岩崎皓さんに星のお話をさせていただきました。夏の大三角の見つけ方や星の名前のこと、後半には地球の自転と星の動きのことまで教えていただきました。子どもたちは、メモをとったり、質問をしたり、興味津々で聞いていました。また、今後も『星や月』の学習があるのでこの学習を生かしていきたいと思います。



## SSH ポスター発表会

### ～3・4・5年生希望者～

SSHはスーパーサイエンスハイスクールの略で、堀川高等学校がその指定を受けています。その事業の一環で、小中学校や総合支援学校、高校の児童・生徒も巻き込んでの取組としてのポスター発表会です。地域の方に教えていただいたことをもとに、自分の考えたことをまとめ、希望者がポスター発表会に参加しました。小学生だけでなく中学

生、高校生も一緒になって発表についての交流もしています。地域の方に教えていただくことで学習が広がり、深まっています。

## 第2回 学校運営協議会理事会 開催

### 学校運営協議会 第2回理事会

#### ○ はじめに

- ・理事長 岩崎猛彦氏
- ・学校長 北川 知世

1. 今年度第1回学校評価について
2. その他 (各理事より)

#### ○ おわりに

- ・副理事長 島 浩之氏

10月6日(金)午後7時より、第2回学校運営協議会理事会を行いました。

今回は、「第1回学校評価結果」を中心に報告し、理事の皆様よりご意見・ご感想をいただきました。

理事長からは、「学校運営協議会は、学校の応援団として運営支援をしてきている。学校は地域のシンボルとしての開かれた学校であり、説明責任もある。ホームページ等広報、発信していかなければならない。少子高齢化が進んでいるが、松ヶ崎小学校の人数規模は多少の増減はあるものの、規模の

縮小はしていない。地域の学校としての魅力のある学校としての広報活動、発信をしていくことは地域の発展のためにも大事なことである。現状を把握しながら、皆で力を合わせ、学校運営協議会として、できるところは、協力を惜しまない。『地域と共に歩む学校』でありたい。」

と、力強いお言葉をいただきました。

学校長からは、運動会の様子、SSH ポスター発表会に向けての取組、自発的なあいさつ運動等学校の近況について紹介しました。

お忙しい中、お集まりいただきました理事の皆様ありがとうございます。

ここでは、いただいたご意見・ご感想の一部を紹介します。

第1回学校評価では、○学校での様子 ○家庭・地域での様子 ○学校の取組 について報告させていただきました。

(第1回学校評価につきましては、10月13日配布予定の『松ヶ崎だより 学校評価特集号』をご覧ください。)

○昨年1月と比べて下がっている原因について考えられる事はどのようなことか。

○昨年度の1月と今年度の7月では卒業入学により児童の入れ替わりがあるので、純粋に児童の変化とはとらえにくい。同じ児童についての経年変化を見ていくことで比較ができる。同じ児童群が、学年が変わってどうなったかが分かる資料があればよい。

○今の帯グラフのような、分布状況を見るのも今の姿であり、経年変化は見られないが、一定の評価はできる。

○評価項目について「挨拶をしている」との問いに対しての規準が示されておらず、どのようにしていればAなのかBなのか規準が示されていない。大体の事はわかるが漠然としたものになっている。

○子どもがどう育っていったかを見ていくのは担任の仕事であり、どうしてそうなったかの原因を考え、手立てを打っていかなければならない。

○担任がかわることで、子どもの成長がかわることがないように、学校として共通理解し、取組をすすめることが大事である。

・本校は、国語科を中心に研究を進めている。子どもたちは、読書ノートや借りている本、辞書がすぐ取り出せるように準備して学習している。「読書絵はがき」や「読書感想文」などにも取り組んでいる。

・全項目について、学年ごとの経年変化を見ていくと膨大な量になる。中心に見ていきたい項目を挙げた方がよい。「あいさつ」などについて見ていきたいと思えます。

○挨拶は、学年が上になると消極的になる傾向がある。

○1月の評価では、7月と比べて、上がっているように取り組まれることを期待する。

○挨拶については、大人の挨拶と関係があるように思う。子どもの見守りをしているが、子どもと共に歩かれている大人が挨拶をすれば子どもも挨拶をするし、大人がしなければ子どもも同じようにしない傾向が見える。挨拶については、大人がまず、模範を示すことが大事だと思う。

・地域の方々にお世話になって、松ヶ崎地域の事や昔から伝わることについて教えていただいています。子どもたちもよく地域の方のことを知っています。挨拶につながるようにどの担任も率先してできるようにしていきたいです。教えていただいたことをもとに、希望した児童だけではあります、学校の外での発表会にも参加しています。今後ともよろしく願いいたします。

○PRが見えるように、また、地域に学校が見えるようにお願いしたい。

#### その他各理事より

○松ヶ崎ワークショップ 松ヶ崎学区総合防災訓練の企画について

○三宅秀典さんの近くに松ヶ崎の土を生かしての陶芸をされている方がおられるので、見学やお話など学習に生かせるのではないのでしょうか。

○認知症サポーター養成にかかわる取組があることの紹介。